

色の好みとパーソナリティについての研究 その3 小学生の場合

Study on the Association between Color Preference and the Types of Personality Part 3 The case of children of Elementary School

| | | | |
|-------|------------------|----------------|----------------------------------|
| 松田 博子 | Hiroko Matsuda | カラーコンサルタントスタジオ | Color Consultant Studio |
| 名取 和幸 | Kazuyuki Nartori | 日本色彩研究所 | Japan Color Reseach Institute |
| 仲谷 洋平 | Yohei Nakaya | 京都造形芸術大学 | Kyoto University of Art & Design |

キーワード：色彩好悪、パーソナリティ、児童、YG性格検査

Keywords: color preference, personality, children, YG personality Inventory

1. はじめに

色の好みは個人の性格によって影響されるのではないかという見地から我々は研究をすすめている。前回までの報告で色の好みがその人のパーソナリティを反映していることが確認された。今回は小学生を対象とし、色の好みについての特徴や傾向、パーソナリティとの関係、色についてのイメージを調査し、興味ある結果を得たので報告する。

2. 方法

1) 被験者

小学生（奈良市内の公立小学校3年から6年の全生徒）225名。男子120名、女子105名（3年男18、女30、4年男45、女24、5年男27、女18、6年男30、女32）を対象とした。テストは1999年1～3月に実施した。

2) パーソナリティテスト

矢田部ギルフォード性格検査、学童用（小学2～6年用）を用いた（以下YG検査）。

3) 調査用カラーチャート

N7.8のライトグレイを背景にした75色（1色あたりの大きさは23mm×14mm）のA4サイズのCGプリント。有彩色は10色相×7トーン（パール、ライトグレイッシュ、ダル、ライト、ビビッド、ディープ、ダークトーン）と、無彩色はホワイト、ライトグレイ、グレイ、ダークグレイ、ブラックの代表色から成り、体系的に配列されたものを用いた。

4) 調査方法

①一人に一枚ずつ調査用カラーチャートを配り、好きな色と嫌いな色について、それぞれ3色ずつ順位をつけて選択させた。また、選択したそれぞれの色について選んだ理由を記入してもらった。

②「くろ、しろ、あか、だいたい、き、みどり、あお、むらさきの色から何を思い浮かべますか」についてそれぞれ自由に書いてもらった。

3. 結果

①嗜好色には男女差がみられた。男子は半数近くがライトパールグリーンを好み、ビビッド、ライト、パールトーンなどの明るく、鮮やかな明清色や、白

・黒を好む傾向がある。女子はパール、ライトトーンに集中し、明るくあわい明清色を好む傾向がみられた。（図1・図2）また、男女とも有彩色には学年差は見られないが、無彩色には見られた（図9）。

②嫌悪色については性による違いはほとんどなく、ダークトーン、ダークグレイ、黒といった暗い色を嫌う傾向がみられる。（図3）

③嗜好色とパーソナリティについて

パールパープルは女子の不安定不適応型（B類とE類）の嗜好率が他の類よりも高く、特にB類（不安定・外向型）の嗜好率が高い（ $p < .05$ ）。（図4）

ライトブルーグリーンは、外向型（B類とD類）の嗜好率が、他のタイプよりも高く（ $p < .05$ ）、特に男子にその傾向が強い（ $p < .01$ ）。（図5）また、E類（不安定・内向型）の嗜好率は、他のタイプの児童よりも低い。

紫系は不安定不適応型（B類とE類）の嗜好率が他のタイプよりも高く（ $p < .05$ ）、特に女子にこの傾向が強い（ $p < .01$ ）。（図6）

④嫌悪色とパーソナリティについて

赤系では男女ともにA類（平均型）が他のタイプよりも高い嫌悪率を示し、また、男子の内向型（C類とE類）は、低い嫌悪率を示した（ $p < .01$ ）。（図7）

⑤黒とパーソナリティについて

黒については嫌悪率とYGとの間には、違いは見られないが、嗜好率では、YGにより違いがみられた。（図8）

不安定不適応型（B類とE類）は、黒を好まず、情緒安定型と平均型（D類とC類、A類）は、黒を好む傾向がみられた（ $p < .05$ ）。また、情緒安定・外向型（D類）が黒を好む傾向が最も強かった。

⑥男子と女子では黒に対する嗜好率・嫌悪率に違いがみられた。

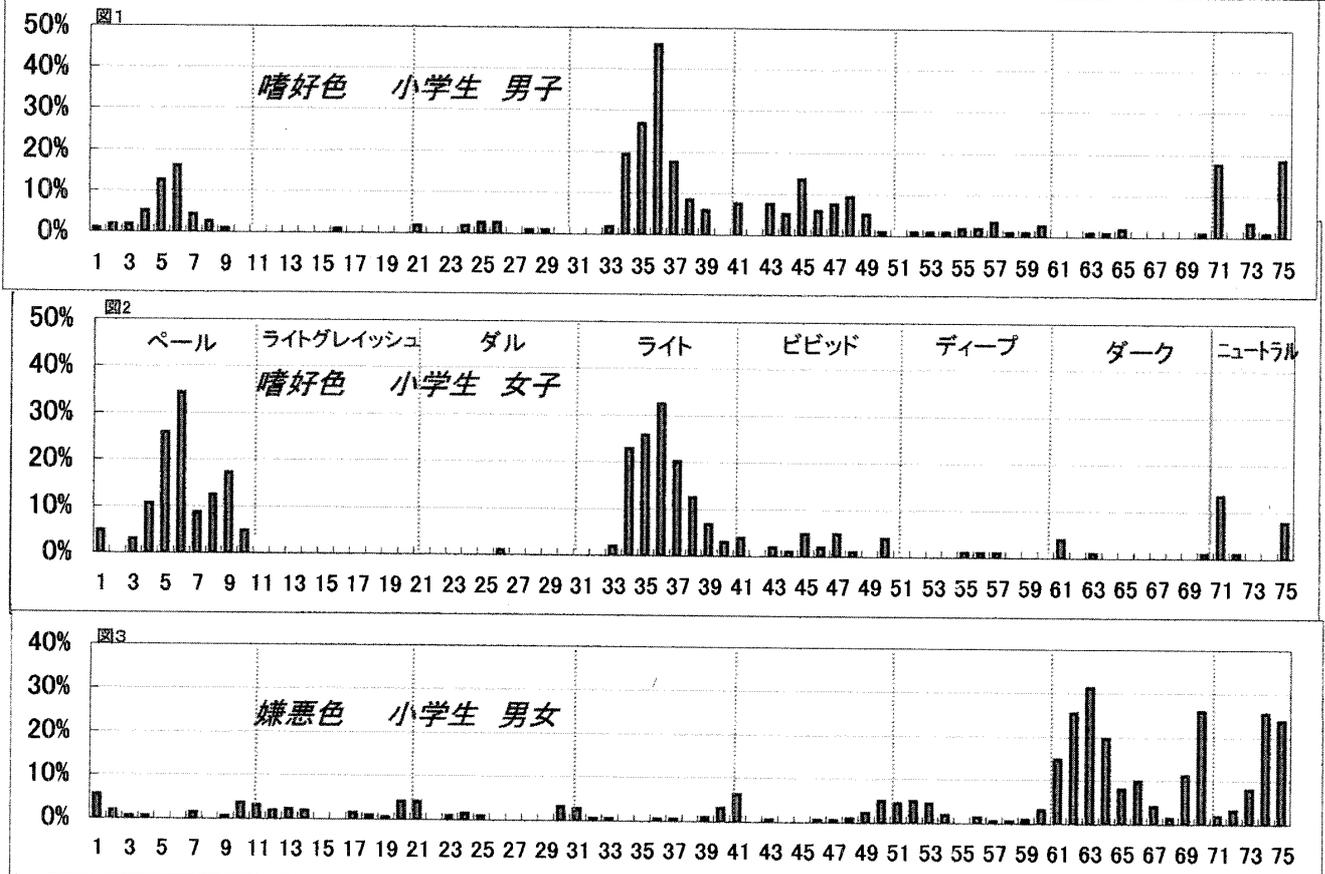
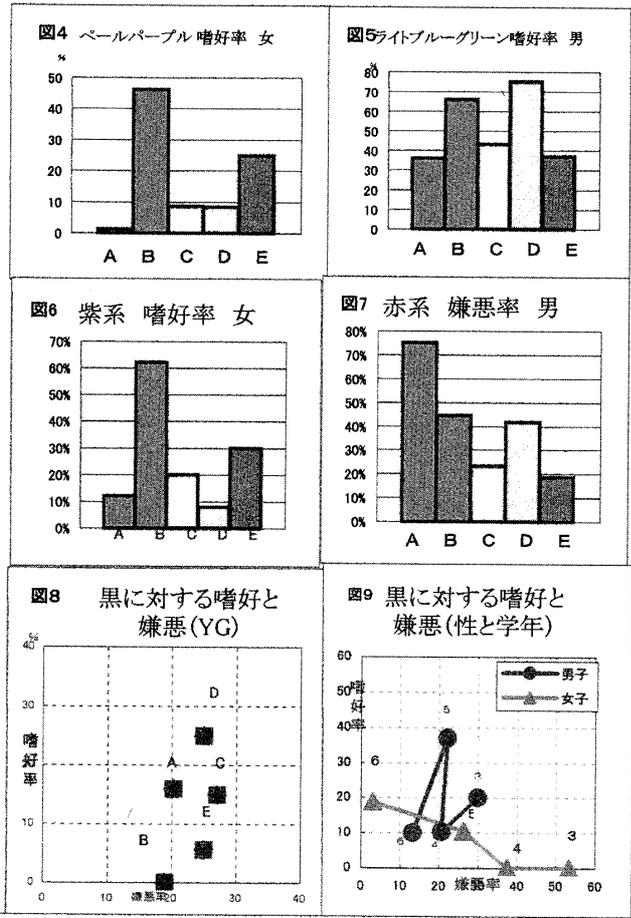
女子は、学年が増すにつれて、嫌悪率が下がり、嗜好率が上がることがわかった。（図9）また高学年女子が黒を選択した理由として、どんな物（色）でも合わせやすい、コーディネートしやすい、引き立つ

色だから、髪の毛と同じ色、定番の色だからといった理由があげられた。

⑦色相の連想語ではあかは、男子の40%が「血」と回答した。女子は22%であり色相のイメージに差がみられた。

4. まとめと考察

今回の調査で、小学生の色彩好悪には、年齢差、性差、パーソナリティの影響がみられた。色彩好悪の理由として、明るさや暗さをあげる子が多い。小学生は明清色調の色を、明るい、きれいと感じ、明るい色を好む傾向がある。明度の低い色をきたない、暗いと感じ、暗い色を嫌う傾向がある。パールパープル、紫系、赤系、ライトブルーグリーンは、情緒安定性や外向・内向といった向性による違いが認められ、パーソナリティが好みに反映していた。また黒については、年齢、性、パーソナリティの影響が認められた。男女とも、黒をカッコいい色として嗜好理由にあげている。また、女子は高学年になると、黒をファッションやコーディネートの色として好む傾向がみられるのも特徴的だ。連想する色では赤や黒に対して男女間にイメージの違いがみられた。色相のイメージについては、ゲーム機等の影響によるものかどうかは今後の検討に委ねたい。



R系:1・11・21・31・41・51・61 YR系:2・12・22・32・42・52・62 Y系:3・13・23・33・43・53・63 YG系:4・14・24・34・44・54・64
 G系:5・15・25・35・45・55・65 BG系:6・16・26・36・46・56・66 B系:7・17・27・37・47・57・67 V系:8・18・28・38・48・58・68
 P系:9・19・29・39・49・59・69 RP系:10・20・30・40・50・60・70 ホワイト71 ライトグレー72 グレー73 ダークグレー74 ブラック75